



# 美の標準

—柳宗悦の眼による創作

2022年1月10日(月祝)－3月20日(日)

□〔写真〕灰釉蓮弁文壺 渥美 平安時代 12世紀 高43.5cm □10:00-17:00(入館は16:30まで) □月曜休館(祝日の場合は開館し、翌日休館) □東京都目黒区駒場4-3-33 □Tel.03-3467-4527 □<https://www.mingeikan.or.jp/>

**日本民藝館**

よく知られている通り、当館創設者の柳宗悦（1889-1961）は、朝鮮時代に作られた染付秋草文面取壺（瓢形瓶部分）を直に観て今までにない深い感動を得ました。柳はそれを契機に、自らが観た本質と等価の造形を蒐め、その証拠を日本民藝館において提示していきます。不思議なことにそれらは、時代や産地、手法、用途などが異なりながら同一の美しさで通底していました。柳はその美しさを「不二の美」「無上の美」「美醜なき美」などと呼び、「美の標準」として広く真価を問い続けていったのです。本展は、原始の息吹を伝える上代の芸術、南北朝や室町時代に描かれた中世絵画、朝鮮時代や江戸時代に生まれた日常の器など、同じ美の源泉から多種多様な姿で顕れた「美の標準」を展観します。

柳は初期の茶人達が見立てた井戸茶碗について、「『井戸』は朝鮮の作というより、茶人たちの直観の創作であった」（「禅美に就いて」、1958年）と述べています。同じ視点に立てば、柳が発見した「美の標準」に合う作物も、柳の創作と呼ぶことができるのではないのでしょうか。柳の問いかけは今も終わらずに続いているのです。

さらに今回は、かつて『民藝』第195号（日本民藝協会、1969年3月）で特集された、同種の中でも古例として知られる名品「伊勢参詣曼荼羅」（小田原文化財団蔵）なども併せて特別展示します。



左より時計回りに／伊勢参詣曼荼羅（二幅の内「内宮」） 室町～桃山時代 高152.0cm 小田原文化財団蔵／奉納面 室町時代 高27.3cm／茜絞染三蓋菱紋旗指物（部分） 桃山時代／漆絵柏文瓶子 室町時代 高30.0cm／スリップウェア角皿（部分） 英国 18世紀後半-19世紀前半／赤彩土器 弥生時代後期 径39.5cm／大井戸茶碗銘「山伏」 朝鮮時代 16世紀 径16.1cm ※会期中「伊勢参詣曼荼羅」ほか一部展示替えをすることがあります

□10:00-17:00（入館は16:30まで） □月曜休館（祝日の場合は開館し、翌日休館） □一般 1,200円 大高生 700円 中小生 200円 □西館公開日（旧柳宗悦邸）・会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜（開館時間10:00-16:30、入館は16:00まで）※変更が生じる場合がございます □〒153-0041 東京都目黒区駒場4-3-33 □Tel.03-3467-4527 □京王井の頭線駒場東大前駅西口より徒歩7分

<https://www.mingeikan.or.jp/>

## 日本民藝館

次回展・仏教絵画 ー浄土信仰の絵画と柳宗悦 2022年3月31日(木)～6月12日(日)

